

編集後記

『京都大学大学文書館研究紀要』第5号をお届けいたします。

巻頭の坂口論文で取り上げられている評価選別論は、大学アーカイヴズのみならず、すべてのアーカイヴズにとって重要な業務であり、研究分野の一つです。当館でも評価選別業務を始めて今年度で3年目を迎えました。選別の判断をめぐっては多くの困難を抱えていますが、しかし議論を重ねることで日々その業務を遂行しています。そのようなときに、諸外国の評価選別理論から示唆を得ることは、自らの業務への考察にあたって大変重要なことと言えます。

また本号には、戦後の学生運動に関する河西論文および川合一良氏・葉子氏の聞き取り記録を掲載しています。期せずして、当館では昨年夏に企画展「戦後の学生生活」を開催し、このところ戦後の学生にスポットを当てた調査研究が深められています。当館は京都大学の歴史に関する調査研究も目的の一つに掲げていますので、今後とも、戦後の学生のみならず、さらに幅広く京都大学史の研究に邁進してまいりたいと思っております。

このように第5号という節目を迎えた本号には、資料紹介や書評なども含め、多岐にわたる論稿を掲載することができました。読者の皆様には、是非忌憚のないご意見をお寄せいただくとともに、引き続き当館へのご指導のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

(大学文書館助手 清水善仁)

京都大学大学文書館研究紀要 第5号

2007(平成19)年1月31日発行

編集 京都大学大学文書館研究紀要編集委員会

発行 京都大学大学文書館

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

電話 075(753)2651

印刷 ヨシダ印刷株式会社

〒604-8277 京都市中京区三坊西洞院町572

NOA 高松殿ビル6F

電話 075(252)5421

『京都大学大学文書館研究紀要』編集要項

1. 京都大学大学文書館に、京都大学大学文書館研究紀要（以下、「研究紀要」という。）の構成および内容に関する基本的計画の立案その他編集の総括を行うため、京都大学大学文書館研究紀要編集委員会（以下、「編集委員会」という。）を置く。
2. 編集委員会に委員長を置き、大学文書館長をもってあてる。委員は大学文書館教員とする。
3. 研究紀要には、京都大学および高等教育の歴史、アーカイヴズ論等に関する論文、研究ノート、資料紹介、書評等を掲載する。
4. 論文は、400字詰原稿用紙換算で60枚以内、研究ノートは40枚以内、資料紹介は80枚以内、書評は20枚以内とする。ただし、編集委員会で特に認めた場合はその限りではない。
5. 研究紀要に執筆することができるのは、京都大学大学文書館の教職員のほか、学内外を問わず編集委員会で選任して依頼した者、執筆を希望して編集委員会で認められた者とする。
6. 原稿は原則として未発表のものに限る。